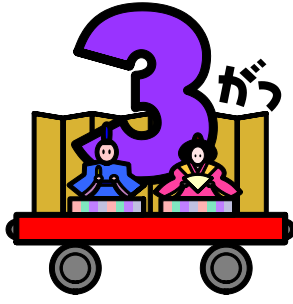


まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん

まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん

2017年度 年主題〈愛されて育つ〉



1・2歳児 3月主題 「おおきくなる」

月のねがい

- ◎大きくなったことを神さまに感謝し、共に喜ぶ
- ◎外に出て、自分から早春の自然を見つけふれる
- ◎保護者や保育者間の丁寧な連携の中で安心して進級する

3・4・5歳児 3月主題 「希望」

月のねがい

- ◎これからもイエスさまと共に歩みたいと願う
- ◎友だちと信頼し合い、楽しさを共感し喜ぶ
- ◎お互いの成長を喜び、新しい生活に期待をもつ



育ち合うということ

おゆうぎ会が終わってから、楽しみにしていたお別れ遠足に出かけてきました。この日はお天気にも恵まれ、春の暖かな日差しを感じながら手をつないで、お散歩気分で行きました。もうすぐ一年生になる年長児が、めぐみ組の小さなお友だちの手をやさしく引いて歩く姿は、とても微笑ましいものです。

先日、おゆうぎのお稽古で見せ合いをしている時のこと。年長児が小さなお友だちのおゆうぎを見ながら「めぐみ組さん、かわい〜!!」と、目を細めながらしみじみとつぶやいたのです。その姿はまさしく、小さき者を愛でる美しいものでした。そして、小さき者を愛おしむ気持ちは、他者のために何かしてあげたいという“奉仕の心”を育てていく大切なものだと思確信しました。

子どもたちが成長していく過程で、自分の事だけでなく、目が外へ向き始め、他者と関わりを持ち始めることによって一人一人の世界が広がります。「楽しいな!」「あの子素敵だな!」「一緒に手をつなぎたいな!」「ぼくもしたいな〜」と、心が動き始めるのです。

一人一人の心が動いて主体的に遊び出すときに、自信や達成感に繋がっていくのでしょうか。集団の中での育ち合いが何よりも嬉しいと感じた一日でした。

さあ、卒園・進級の時。互いの成長を喜び、希望を持って新しい生活に進んでほしいものです。 園長



今月の聖句 「愛はけってたえることはありません」

I コリント13:8

愛をあらわす言葉に4種あります。友愛・友情の愛(フィレオー)、異性を求める愛(エロス)愛国心の愛(ストルゲー)そして博愛(アガペー)です。「今月のことば」は博愛についてです。以下、使用する表現の愛はすべてアガペー愛であります。

「たとえ、あらゆる奥義と知識に通じていても、また山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ無に等しい。たとえ、自分の全財産を人に施しても、愛がなければいっさいは無益である。

愛は寛容であり、愛は情け深い。また、ねたむことをしない、愛は高ぶらない、誇らない、無作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みを抱かない。不義を喜ばないで真理を喜び、そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない。」(以上コリント人への手紙1章2節～8節引用) このアガペー愛が世界に根付くなら、平和は間違いなく確立します。

西之表基督教会牧師 前理事長 池田公榮

3月の行事予定

2日(金)	参観日(3・4・5才)
3日(土)	参観日(2才)
8日(木)	弁当の日
17日(土)	第60回卒園式 父母の会総会
20日(火)	修了式(1号午前保育)
22日(木)	入園準備説明会(1・2号)
24日(土)	入園準備説明会(3号)
30・31日	休園日(新年度準備の為)

4月の行事予定

9日(月)	始園式(1号午前保育)
10日(火)～	1号新入園児慣らし保育
14日(土)	入園式・新年度クラス会
未定	田植え、
未定	交通安全教室

星とたんぼぼ 金子みすゞ
青いお空のそこぶかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんで、
星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

ちつすがれたたんぼぼの、
かわらのすきにだアまって、
春のくるまでかくれて、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

退職のお知らせ

遠藤美保保育教諭が3月末日をもって退職致します。皆様には大変お世話になりました。今までのご支援に心より感謝申し上げます。



ひかりの子どもらしく 旅立ちの春

寒暖を繰り返しながら、一雨ごとに暖かみを増してきました。春の訪れを私たちに感じさせてくれるのは太陽の光です。日ごとに日差しが強くなり、春らしくなってきました。厳しい寒さの後は、春の光のありがたさをつくづく感じさせられます。子どもたちはいち早く身体で春の訪れを感じ取っているようです。室内にいるよりも光の降り注ぐ園庭で存分に遊びたい気持ちが溢れるようです。

『ひかりのこどもらしくあゆみなさい』子どもたちの「卒園の歌」の歌声が聞こえ始めると、この聖句を卒園生に贈る聖書に書き込んでいきます。一人一人の顔を思い浮かべながら筆を運ぶこの時間は、まさに至福の時です。人格を形成する大切な乳幼児期に、職員一致して個々の育ちの過程にしっかりと寄り添えることができたのか。自己肯定感が育まれるような言葉掛けができたのか。発達に最も大切な「あそび」が自由に探求できる環境が整えられたのか。静かに内省する時でもあります。しかし、何よりも集団生活の中で、活動や行事を友だちと共に経験する機会を多く備えることができたことは感謝でした。

聖書では光の反対の闇のことを「罪」と呼んでいます。法や倫理に反する「犯罪」としての罪ではなく、生まれながらに持つ生きている憎しみ、猜疑心、ねたみ、攻撃心等です。神に背を向けて生きていること。神の意志に逆らって生きていること。自分中心に生きていることも言えます。昨今のSNSにおける他者への攻撃や誹謗中傷を知るに、人間はいかに罪深い存在であるかに気づかれます。この暗闇は目に見える世界というよりも、魂の中の暗闇と言えらるのではないのでしょうか。魂の奥底にある暗闇が、人間の世界を悲劇的なものにしてしまつたようです。しかし、光の源であるイエス・キリストによって、愛と希望に生きるものとして変えてくださいました。光は明るく、温かく私たちを照らし、希望を与え、愛の心を育ててくれます。本園では、すべての園児たちがキリストの光に照らされ、愛と希望に包まれて「神様の子ども」として成長するようにと願い、祈りつつ保育を行ってきました。これからの神様に愛され守られて、心身ともに成長していくことを願っています。

多様化する時代にあっても、一番大切なものは、いつも目に見えないのだということをお忘れずにしてほしいのです。金子みすゞの詩にあるように、昼の星やたんぼぼの根のごとく、見えないけれど確かに在る神さまの大きな愛と人々の愛に満たされ、心優しいひかりの子として歩むことが出来ますように祈っております。この一年間、保護者の方々には色々な面でご支援ご協力をお詫き、誠にありがとうございました。多くの足らざるところをお詫びし、心より感謝申し上げます。

学園長

今井和子先生の

「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」より

「2歳児 おもちゃを取られても取り返せない」

悩み

おもちゃを取られても取り返さなくて、じれったいんです

行動の意味

子どもの個性であり、決して弱虫ではありません

子どもには、一人ひとりかけがえのない個性があります。生まれつき内気な子や、おとなしくて、「返して」といえない子がいることを理解しましょう。決して、「弱虫ね、返してもらいなさい」「情けない」などと大人の気持ちを子どもにぶつけてしまわないこと。子どもの気持ちを受け止め、どうしたらいいかを伝え、子どもを守ってあげましょう。

対応法

安心感を与えることが、子どもを強くします

そんな場面に遭遇したら、

「お母さんと一緒に返してってってみる？」と子どもに聞いたり、その場で「取らないでね」とお母さんがいつてあげることも大事です。

取られまい、とする行動を見せたら、そばに行って、「取らないでって思っているのね」と言葉にしましょう。お母さんが子どもの気持ちを代弁してあげることで、訴えれば返してもらえるんだ、ということがわかり、自分でもだんだんいえるようになっていきます。守ってもらえている、という安心感から子どもも強くなっていきます。今おとなしくても、それがずっと続くわけではありません。何かのきっかけで自信がついてくれば、いえるようになります。

今はこれでいいと、気楽に考えましょう。

